



初等部だより 12月号

鎌倉女子大学初等部

平成25年12月2日

第9号

バスの中でいただいた！ 「行ってらっしゃい。」の言葉！

部長 松本 安博

師走を迎え、風の冷たさが一段と厳しさを増してきたように感じます。

この季節になりますと、例年インフルエンザの流行が心配されます。ご家庭におかれましても、うがいや手洗いの励行、睡眠や栄養の摂取など、健康管理に努めていただきますよう、よろしく願いいたします。

11月最後の月曜日の朝のことでした。私は、いつものようにバスセンターからバスに乗って、初等部に向かおうとしていました。「部長先生、一緒に乗ろう。」の声に誘われて、私は停車中の一台のバスに乗車しました。バスの中は、既に初等部生でいっぱいでした。私が乗車しているからでしょうか、乗車マナーはまずまずで安心しました。いつもこのようであることを願うばかりです。

日々の登下校は、初等部生一人ひとりにとって、安全を心がけ、ルールを守り、マナーを身に付ける大切な学びの場でもあります。車内で読書をしたり、声を低くして友達と仲良く話したりしている姿や車窓から歩道を広げないで歩いている姿を目にしますと、とてもうれしく思います。

やがて、バスは「鎌倉女子大学前」に着き、初等部生が降車を始めた時のことでした。降り口近くの席に座られていた高齢のご婦人が、降車する初等部生の一人ひとりに「行ってらっしゃい。行ってらっしゃい。」と、声をかけてくださっていました。私は、小さな体をさらに小さくして繰り返し繰り返し声をかけてくださっているその光景を見ていました。そして、私も「ありがとうございます。」と、運転手さんや出発を待っていただいていた皆さんにお礼の挨拶をした後、そのご婦人にも一礼して降車しました。

動き出したバスを見ていますと、降り口近くの窓の向こうには、正門をくぐっていく初等部生に優しい視線を送ってくださっているご婦人の顔がありました。同じような年ごろのお孫さんを思い出されたのでしょうか。それとも何かわけがあって、可愛いお孫さんにしばらくお会いになっていらっしゃらないのでしょうか。きっと、初等部生を通して何かを思い出されているように思いました。そして、私は、いろいろな思いを馳せながら、小さくなっていくバスを見送りました。

私は、声をかけていただいた初等部生がこの「行ってらっしゃい。」の言葉をどのように心に残したのか、気になりましたので、早速その日の朝会でこのことを話しました。そうしましたところ、そのバスに乗車していたほとんどの初等部生が、その言葉かけを覚えていました。そして、僅かの時間ではありましたが、全校の初等部生とともに、しばしご婦人の気持ちを思い見るひとときをもちました。家族からかけられる「行ってらっしゃい。」とはちがったかもしれませんが、世の中のいろいろなところで、いろいろな人が温かく見守ってくださっていることに気付いてくれたことと思います。また、家族への思いを新たにしてくれたことと思います。

今年の11月17日（日）は「家族の日」でした。そして、その日の前後1週間が「家族の週間」でした。これらは、平成19年に内閣府によって、生命を次代に伝え育んでいくことや子育てを支える家族と地域の大切さ、家庭の役割等についての理解を広く呼びかけるために制定されたものです。「家族ていいな。」、これからも家族の一員としての自覚を形成し、家族を大切にする初等部生の育成に意を注いでまいりたいと思っています。